

飯山市総合計画等評価検証委員会 会議概要

1 会 議 名	令和8年度(2026 年度) 飯山市総合計画等評価検証委員会
2 日 時	令和 8 年 9 月 17 日(木)15 時 30 分～17 時 06 分
3 会 場	飯山市役所 3 階 31 号会議室
4 委員出席者 (順不同)	本間委員、上村委員、庚委員、西川委員、常田委員、片山委員、徳永委員 ※欠席:小嶋委員、阿部委員、岡村委員
5 報道機関	北信濃新聞
6 市出席者	市長、企画財政課長、企画調整係長、企画調整係
会 議 事 項 等	
1 開 会 (進行:企画財政課長)	ただいまより、飯山市総合計画等評価検証委員会を開催する。この会議は、飯山市第6次総合計画の進捗状況について評価検証いただくもの。いただいた意見は各課へ共有し、提案等については、新年度予算編成へ反映していく予定です。 大口委員が異動されたため、後任の徳永支店長に加わっていただいた。岡村委員、阿部委員、小嶋委員については欠席となります。会議概要については、名前を伏せてホームページ等で公開させていただきます。
2 あいさつ (市長)	市長あいさつ ※あいさつ後、公務につき退席
3 協議事項(進行:委員長)	(1)飯山市第6次総合計画前期基本計画の進捗状況について 資料1～3について事務局から説明。 (2)意見交換(意見交換シートによる) (委員長) このあと意見交換に入りますので、ご質問ありましたら意見交換しながら伺うというようにお願いします。 今回の意見交換は、あらかじめ事務局から提案のあった3つの内容について意見交換し、その他についても3つの意見交換が終わったあとに伺います。 まず1つ目の内容について事務局からお願いします。 ①移住定住施策の実績と、人口減少とのギャップについて(事務局説明) (委員) 高齢者の施策は大分充実していて、子育て支援についても色々な制度ができ、子育て世代にとってはありがたいと思う。若者住宅などの若い移住者のための支援もあるが、市内の方が市内の方と結婚して市内に住む場合、まだ若く給料が少ないときなど、お金の面で苦しいなという声を聞いたりするが、そういった面の支援は現状ありますか。 (企画財政課長) 市内居住の方の遠距離通勤支援等です。確かに市外から移住される方には手厚いが、ずっと住んでる方には何もない、という声は聞いています。 (委員長) 転出先では補助がもらえるとなれば、子育てや仕事のことを考えたときに、別の地域に転出して補助をもらった方が良く、となってしまうので、20 代 30 代の転出者が多いということであれば、そういった所をお願いできればと思う。市長あいさつで女性雇用を増やすための講座を実施とあったが、生活に直結する面での支援が必要だと思うのでよろしくお願いします。 (委員) 飯山に住んでいる方が就職し一人暮らしをしたいと思ったときに、飯山のアパートは家賃が高く、長野市の方へ行けば安いアパートがあるので、長野市の方へ出て行ってしまおう、という選

択肢がとられてしまうと思うし、実際親族でもそういう検討をしている。若い人が飯山市に住んで、一人暮らしをして、新幹線に乗って東京に遊びに行くとか、10分で長野に遊びに行くとか、そういう選択肢をとりやすい住宅環境等が大事なのかな、と日常生活からも思いました。

(委員長)

通勤通学時の新幹線の手当はあると思いますが、難しいとは思いますが、外に出ても帰ってくるという面で、日常的に遊びに行くときの新幹線の補助等があれば良いと思う。

(企画財政課長)

長野から10分で帰ってこれるのは便利ですね。転出先で一番多いのが長野市と中野市。近い所へ転出されている傾向がある。

(委員)

転出により仕事も転職されてるというところまでは分かりますか。

(企画財政課長)

アンケートによると転出される方のうち、42.9%が就職、転職を理由に転出されている。

(委員)

高校生への市内企業への就職支援等がありますか。

(企画財政課長)

市内企業の説明会位でしょうか。

(委員)

転出する20代が多い、という大学生も入ってて、大学卒業後就職で飯山を選ばない、ということだと思うが、市内出身の大学生に市内企業の情報提供や就職説明会等はしていますか。

(企画財政課長)

単独ではしていないと思われる。

(委員)

飯山市でも人手不足の企業はあると思うし、決して働き口が無いわけではない。情報が届いてないのではないかな。地元に戻って働きたいという学生に、しっかり情報が届けられれば良い。また、西武文理大学や法政大学、文化学園、長野大学等、色々な大学と関わりがあって、中には飯山が気に入って、飯山で働きたいという方も少なからずいるので、そういう方へのアプローチがあって、飯山との繋がりができて、社会人になって来てくれれば良いと思う。

(企画財政課長)

おそらく業界的にやっていない。高校生の90%が専門学校、短大、大学に進学するなかで、高校を卒業してすぐ就職するという割合は少ない。ですので、例えば飯山市で学べるような場所をつくるとか、そんな方法だって良いのではと思う。

(委員)

通勤通学費の補助があるが、都会だと電車やバスなどで車がなくても生活できる環境だが、飯山市だと就職すると車が必須。家庭の金銭的な負担も大きいので運転免許の取得補助があると良いと思う。

(委員)

資料3を見ると、2019年に人口20,000人を割ったと記憶しているが、人口減少のペースが県内の他市町村と比べ、圧倒的に速いというのが飯山市が抱える一番の課題だと思う。人がいなくなると税収が減る。企業の数も減ってくるので法人、個人の税収が減ると市としての財政基盤をどうやって維持するかということが、人口減少の一番の恐ろしさであると思う。この問題をどう考えるかという、2軸で考えなければいけないと思っていて、まず人に来てもらう施策。移住者にどうやって入ってもらうか。魅力を感じている人は勝手に入ってきてくれるが、さらにこういうメリットがあるのでどうですか、というのが人を増やす軸。もう一つは、今いる人、高校生もそうですが、そういう方たちを逃さない方法。どういうふう to 指導育成すればその子たちが帰ってくるのか。今住んでいる20代30代40代の人が、やっぱりここ良いよねと思って住み続けてくれる。この2軸をどうやって考えていくか。転入をどう増やして転出をどう止めるか。企業もそうで、売り上げをどうやって増やすのか、コストをどうやって下げるのかというところで利益が増えてくる。なので、人口を増やしながら逃がさない方法が大事なかなとすると、進学している人はどこの大学へ進学しているのかは恐らく掴んでいると思うので、その大学と連携して、帰ってきてもらいたいというのをどのようにPRするか、というのが一つの考え方としてあるのでは。

また、先ほどの隣の市にいた方が居住メリットがあるのでは、となってしまう。私は長野市の

出身で、いわゆる西山という山の方に住んでいる方たちは、私たちの住んでいる辺りに家を建ててんです。なぜかという、会社は長野市内にあり、実家は山の方にあります。なので中間地点としてここが良い。おそらく、長野市や中野市に転出される方は、実家が心配になればすぐ駆けつけられるという事でそういう選択をしていると私は思っている。そこをいかに食い止めるかというところで、入ってくる作戦と逃がさない作戦をしっかりと話をしていくと良い答えが出てくる可能性は高いかなと思っています。

(委員)

小さい頃から飯山の良いところを刷り込む。というのが良いのではないのかなと思います。姪っ子などは飯山には「何もない」と。この年になると「何もない」じゃなくて、飯山には良い物いっぱいあるよねと考え方が変わってくるが、自分が若いときも、やっぱり東京に行ってみたいし住んでみたいという中で、若い頃から飯山にはすごく良い物がいっぱいあると刷り込んで、帰ってきてもらってことかなって姪っ子たちを見て思います。

(委員)

例として良いのかあれですが、新入社員にふるさと人事というものをやっていて、飯山市出身者が2人います。彼らは働きやすい。知っている人の家とか知っている会社だとか。どうなの、と聞くと、飯山が好きなので最後は支店長として帰ってきたいと話してくれる。地元採用して良い部分はあるが、どうしても東京への憧れは強いので、全員が帰ってくるという訳にはいかないが、帰ってきて良いところ、好きなのところだという思いは彼の中にあるのかなとは思いますが。

(委員)

20代30代の市外からの転入が多いというのは、仕事で移住されるのか。

(企画財政課長)

その年代で移住されている方は自営の方が多い印象です。

(委員)

20代30代の方が飯山で働きたい、飯山でこういう仕事がしたいっていうのが見えれば就職活動を飯山ですると思う。地元が好きなのは多いと思うが、地元で働く仕事って何があるんだっていうのが見えているのか、いないのかというところが就職活動をするにも大きいかなと思います。働いている人とのつながりがあったり、見えているともう少し帰ってきてやすいのかなと。中高生って社会の人と関わらずに大学に行ってしまうので、色んな企業さんがあり、飯山には個人でこんな仕事を立ちあげている人がいるというのが伝わると帰ってきてやすいのかなと。

(委員)

都会じゃなくて、なんでここを選んで来る人がいるか、戻ってくる人がいるかと考えると、やはり都会にはないこの土地の魅力、スキーができる、多様な働き方ができるとか。価値観は色々で電車の駅やお店が近くてというところに便利を感じる人もいると思うが、私の周りでは、スキー場に10分で行ける、空いた時間に行ける、それが便利で子どももそういう環境で育てたいとか、小さい頃からスキーをやっていた人たちは、帰ってきてスキーのインストラクターや、スキー業界も人手が足りてないので、そういうところで活躍して自分の居場所や、地元に貢献しているというやりがいを見つけながら暮らしている方がいる。ただ、冬はスキーの仕事があるけど夏はない。夏は農業をやって、でも社会保障がなかったり。先ほど市長がお話していた社会保障のついた組合がすごく良い。多様な働き方ができる飯山だよっていうPR。飯山に来たときに驚いたのが、冬はスキー場で夏は農業っていう、一人の人が全然違う面を持っていて、夏ラフティングガイドをやっている人が、バーのオーナーをやっているとか、一人何役もやっていて、一人で何でも出きるんだと。昔、一人多役というキャッチフレーズを見て、かっこよくて。それってすごい、この土地ならではのなんだと。そうするしかないって事もあったと思いますが、一つの企業に勤めてというのが良い人もいるし、大事なこともあると思うが、ここを選んでもらう、ここだけの魅力という面では、農業や観光やスキー等、この場所の魅力を活かして、自分なりのライフスタイルとか多様な働き方ができるということをPRすると、行き先に悩んでいたり、都会に出て疲れた若者が地元帰って、そういうことをやってみようとなるかなと思う。でも、元々地元でスキーをやって楽しんで来た人じゃないと、飯山に帰ってきて雪は大変だとなってしまうと思う。雪国で楽しいとか、スキーをずっとやってきて自分が帰ってきたらそれで地元で貢献できるという、小さい頃から地元の良さを知っているのは大事だと思う。スキーをやる人がだんだん減ってきて、この先どうなっちゃうんだろうと。お金がかかりすぎるっていうのが一番。前から言ってるんですが、せめて小学生、できれば中学生までのリフト代支援。やる人がいなくなって将来どうなっちゃうんだろうと思う。

(企画財政課課長)

スキー場が子どもの遊び場じゃなくなってしまった。

(委員)

ゲレンデで食べようと思ってもすごく高価で、子どもたちはおにぎり持って行って食べてとやっていますが、そもそものリフト代が市からいただいている利用券だけでは足りず、お友達と行こうとなったときに、無料ならもっと気軽に行けて、やる子が増えると思う。

(委員長)

まとめるのは難しいですが、いろいろ意見をいただいて、反映させていただくという形で。来てもらう人たちへの魅力の発信や、長く住んでいる人たちへの支援であったり、考えられるサポートというのはあるかと思うので、よろしくお願いします。

では次に進みます。

②子育て支援施策の実績と、現場実態・出生率とのギャップについて(事務局説明)

(委員長)

質問ですが、資料3の3Pに合計特殊出生率の目標値が、令和9年度で1.71となっているが、この目標値はいつ立てられたものですか。

(企画財政課)

第6次総合計画ができたときの数値です。

(本間委員長)

平成27年度以降、それに近い数字がないようで、修正される予定はありますか。

(企画財政課長)

来年度、後期基本計画を策定予定なので、修正があるとすればそこで行う予定です。当時としても高い目標だったと思います。

(委員)

社協として赤ちゃんが生まれてから1年間お母さんのサポートをする事業を実施しているが、利用される方がどんどん増えていて、1ヶ月40時間のMAXで使う方もいるし、数時間だけの方もいる。使い方もニーズも広がってきていて、ホームヘルパーのようにみてほしいという方、ちょっとしたお助けが必要という方がいて、市外から来て子育てされて、誰も助けてくれなくて困っているという方が比較的多いイメージ。市内に親がいても頼れないという方も多いので、子育てをしながら課題を抱えたり、助けてと言いつらい。昔に比べると窓口は増えているし、制度もすごくたくさんあるが、やっぱり働いている方は増えているし、私たちの想像以上に、もっとお父さんお母さんに寄り添える何かがあると、次の子も安心して、生活を子育てに全振りしなくて、今の自分たちの生活を維持しながら子育てができれば、と思っているお母さんが多いのかなと。それが良い悪いはそれぞれありますが、もう少し外に出て自由に動いたり、話ができる場や環境だったり、そういうことができる業者さんがあっても良いのかなと。制度としてそこまでやるのは限界があると感じつつ、親子世代のサービスをさせてもらっている側からすれば、そんな状況があると思いました。

(委員)

もう一人子どもを望めるか、というのは環境も大事だけどその人個人の生き方に関わる事だからなかなか行政として実際にできること、これがあれば絶対増えるみたいなことって難しいのかなと思う。私も友達とかを見ていると難しいなっていう感想です。

(企画財政課長)

去年のこの場で、そういった場所がほしい、という意見をいただきました。

(委員長)

子どもたちが遊べる場所、旧城南中学校跡地に民間が入ってどういう感じになるのかはまだこれからだと思いますが、そういった場が増えていけばお子さんを考えている人の選択がしやすくなるかなというのと、前回、産院がなく一番近くで中野市だという話があって、お医者さんがそもそも少ないので難しいとは思いますが、医療の奨学金制度等で重点的に募集をかけるとか、なかなか難しいとは思いますが、安心して産めるというと病院が近くないと、それが転出のきっかけとなるのかな、という感想です。

(企画財政課長)

これをやれば絶対増えるっていうのはないんですが、こんなことやってみたらどうか、こうし

た方がいいとかあれば、我々も進めるきっかけになる。

(委員)

実際飯山でお子さんを産んでいる年代は何歳くらいの層になりますか。

(企画財政課長)

私の感覚でよいでしょうか、最近3人目、4人目、5人目の家庭っていうのがなんとなく多くなってるような気がします。40 前半位までは出産されているようです。

(企画財政課)

令和7年中ですが、出産した方が一番多いのが35～39 歳、次が30～34 歳、次が40～44 歳、次が25～29 歳という順番の年齢層になっています。

(委員)

大きい子の話になってしまうが、2 人3 人と兄弟がいて、男の子と女の子だと、それぞれクラブ活動や習い事が違う。クラブ活動が地域移行になり学校ではできなくなり、パズルのようを送迎。仕事を切り上げてご飯も作れずに、あっち送って、こっちの子はあっちに送って、迎えがどうで、という話をよく聞く。中学校の部活の地域移行で土日は城南中学校まで行くときに、城南中までバスを出してもら、その送迎の支援はすごくありがたかったんですが、それが終わるようで何月以降は全て保護者の送迎になりますとメールが来ていて、うちは土日の部活はもとも行っていないので直接関係はしていないですが、夕方の時間帯に飯山の南の方まで城北エリアから連れて行くとなると、親はそれに合わせて仕事を切り上げるっていうのはとても無理で、それはもう不可能だねっていう話は良く聞きます。家庭間同士の協力で今日はお願い、とやるしかないんですが、子どもが増えるほど、あっちに送迎こっちに送迎。各家を回ってとか、たくさんのラインを出してほしいということじゃなく、1本でいいので城北から城南のラインを続けて欲しかったなど。なんで廃止になってしまったのかな、利用率が少なかったのかなと。

(企画財政課長)

部活動の地域移行については、飯山市だけでなく木島平や野沢とか岳北エリアで考えていくところなので、バスをやめるという情報は分からないですが、これから本格的にやるという方向なので、確認してみます。

(委員長)

ここで2つ目を切り上げて3つ目に進みたいと思います。

③高い評価を得る「雪対策」と「雪を理由にする転出」とのギャップについて(事務局説明)

(委員)

言葉がわからなくてお聞きしたいんですが、スクラム除雪ってどういう除雪になりますか。

(企画財政課長)

間違っていたらすみません。除雪車が入らないような市道を地域の皆さんが協力してロータリーで除雪するような、そういった仕組みだったと思います。

(委員)

今の飯山市の雪かき支援制度はすごく充実していて、こんなにすごいのはないなと思っている。弱者世帯にピンポイントで支援しているところを、もう少し子育て世代へ幅を広げてもらっても良いのかなと。お金も増えてしまうので希望ですが。両親いるけど、子どもが小さくて保育園や小学校に通わせて、自分も仕事に行かなきゃいけない、けど雪かきもしなきゃいけないって、すごく大変です。そういうところの支援で、子育てしながら仕事しながらできるよっていうのが良いと思う。とは言え、どこまでお金、サポートを入れるのってところで現実的ではないと思うので、個人的な希望ですが、コロナの時とか就業時間をずらした時があったと思うので、大雪の時は朝1時間遅く出勤して良いですよっていう世の中にしていく。そうすると私自身も働きやすい、自分自身が働きやすいと他の人も働きやすいかなと思うので、フレックスにできるようなものを率先して行政の方がやっていただけると民間もやりやすくなっていくかなと。朝一の除雪の混雑も緩和されるし、ぜひやっていただけたらうれしいです。4時5時からやっても出勤時間は変わらないので、それに合わせて雪かきしなきゃいけないのはすごく苦痛。それが職場で認められれば安心して除雪できるかなと。

(委員)

飯山には冬の飯山時間があるってなれば話題になりそう。

(委員)

先ほど意見があったように、弱者と子育て世代とかの支援をどうするかというところで、魅力があって、雪が好きで移住されてる方には、雪かきが楽しくて仕方ないとか、元気な方は除雪うきうきやっている方もいる。そういう方たちが支援隊のように活躍できる場所を与えてあげると喜んで除雪してくれる人がいる。そういう活躍や、移住してきた若者がホイールローダーを訓練できる場所を作ってあげるとか。手助けしてあげる部分と自分でできるようにしてあげる環境を整えてあげるのも良いのではないかな。

(企画財政課長)

制度的には充実しているが、やってくれる人が地域によって少なくなっているのが大きな課題であるので、そういう方が関わってくれるような集落の仕組みを作るというものの良いかもしれないですね。

(委員)

そこで多少なりとも対価や収入を得られれば。

(委員長)

この3つ以外でご意見ありましたらお願いします。

(委員)

136Pの集落支援員さんのところを詳しくお願いします。

(企画財政課長)

集落支援員としては、移動スーパーとして集落を回ってもらっています。あと、斑尾未来計画を計画する集落支援員として、今斑尾や妙高周辺でリゾート開発や上下水道の統合もあり、斑尾全体のまちづくりが変わってくるなかで事務局になってもらい、市も含めまちづくりについて話し合いをしているという形です。

(委員)

飯山市はお城があって、城下町の文化がある町だと思う。飯山に来て思ったのが、あまり茶道をやっていないと思っていて、お茶はお茶だけでなく、和菓子があって、掛け軸があって、和紙があってという世界で、飯山市が持っているアイテムと繋がると思うんです。なので、お茶のこういうものをやっていますとか、お茶の作法とかできます？となったときに、できない。前々任地が岐阜の中津川だったのですが、あそこは侍文化があって焼き物も立派なものがあり、そういったものを融合させて文化として承継していこうというのがあるので、飯山市の持っているアイテムが繋がるという学習って非常にチャンスがあるのではと勝手ながら思っています。

(企画財政課長)

飯山城については、お城を建てることはないですが、江戸時代の末期の史実に基づいた形で復元しようというコンセプトで20年以上になる計画を作っているところで、そういった発想は全く無かったので、歴史を学びながら、そういうものを一緒に考えて城下町の良さに繋げて行ければ良いなと思いました。

(委員長)

小中学校の総合の時間の学習と相性が良さそうだと思うので、魅力の発信というお話もありましたけど、小さい頃から刷り込むじゃないですが、学習体験として特産品等色んなものに興味を持つきっかけになると思います。

他にご意見ありますでしょうか。続いて協議事項(3)のその他に進みたいと思います。

(3)その他

資料4について説明

質問・意見等なし

4 その他(進行:企画財政課長)

→なし

5 閉 会

(企画財政課長)

今回お話いただけなかったことやお気づきの点がありましたら事務局の方へ電話・メールで結構ですので、こんなアイディアはどうかとか、飯山市にはこんなものが必要だよというのでも結構ですので今月中を目処にいただければと思います。

また、今回いただいたご意見をまとめて皆さんに確認してもらい、いただいた意見については

庁内各課の方へ実現可能かどうかそういう作業をしてもらい、できる部分については来年度予算編成に反映していきしていきたいと思っています。

以上で評価検証委員会を終わらせていただきます。